



株式会社セック

Systems Engineering Consultants Co.,LTD.

<http://www.sec.co.jp/>

証券コード：3741

2005年3月期中間決算 説明資料

2004年11月18日

株式会社セック

会社概要

リアルタイム技術専門

スローガン

戦略キーワード

セックは

「**社会の安全と発展のために**」

“ *Realtime@net* ”

ネットワークをベースとするリアルタイム追究

リアルタイム技術専門会社

「 リアルタイム 」とは

イメージ

実時間、同時、即時

リアルタイムシステム

変化する外界と、密接な相互作用をもった
コンピュータシステム

技術的困難さ

- 外界の事象が集中して発生した場合でも応答時間を保証すること
- 必要な信頼性と可用性を保証すること

沿革



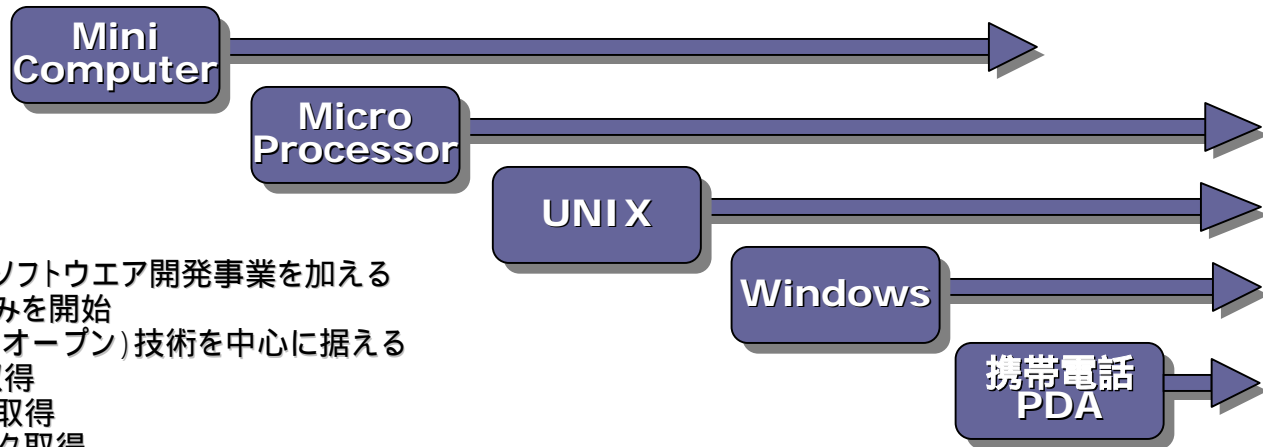
1970年
株式会社セック設立

1985年
大阪事業所
開設

1992年
AMSEC
設立

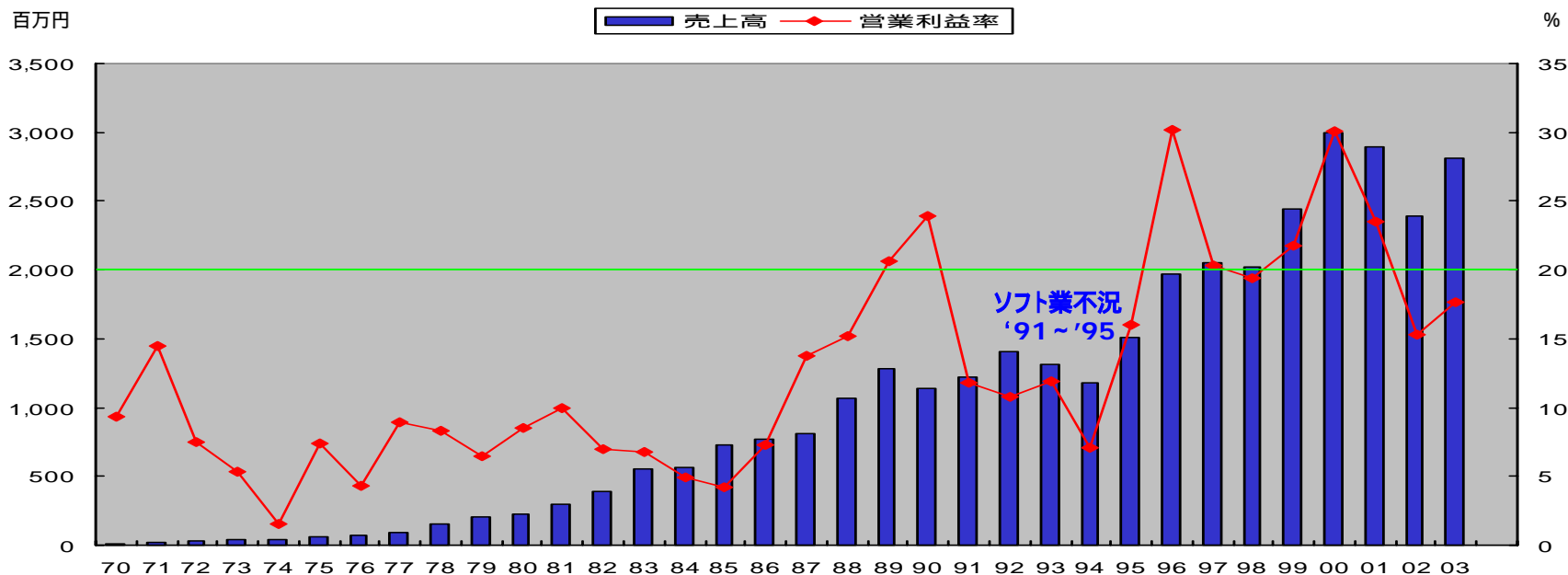
2004年
JASDAQ
上場

3名の大学院生による第一の創業。リアルタイム技術を基盤技術とし、ミニコンピュータを用いた計測・制御分野の技術アプリケーション開発事業を開始。

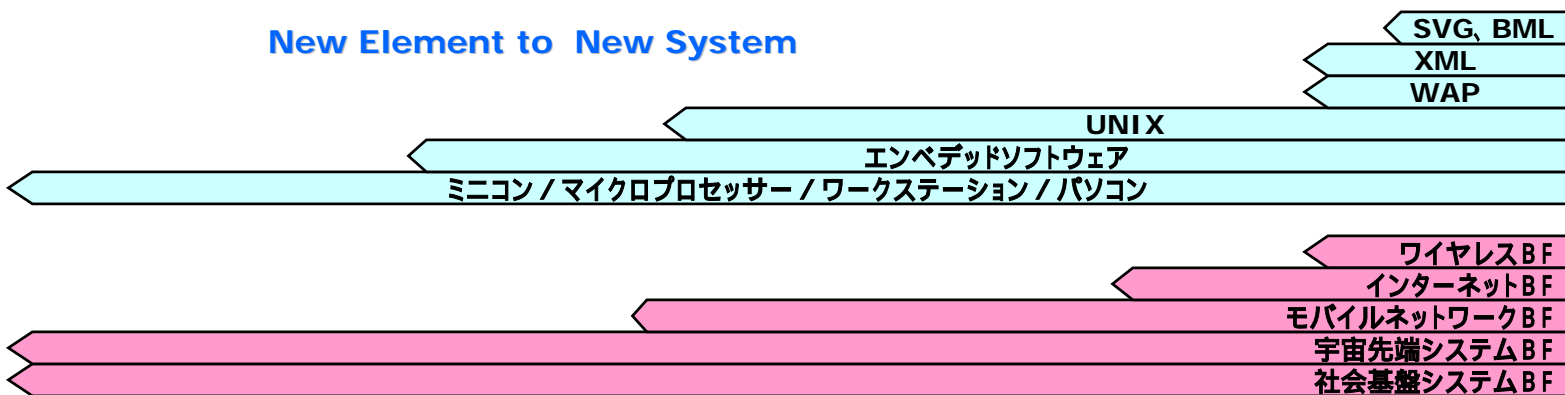


- 1982年 通信分野の受注ソフトウェア開発事業を加える
- 1984年 Unixへの取り組みを開始
以来、国際標準(オープン)技術を中心に据える
- 1998年 ISO9001認証取得
- 2000年 ISO14001認証取得
- 2001年 プライバシーマーク取得
- 2003年 情報セキュリティマネジメントシステム(ISMS)適合性評価制度の認証を取得
- 2004年 JASDAQ上場

質重視、イノベーション指向、高利益率



New Element to New System



セックの技術サービス

ビジネスフィールド	技術サービス			ソリューション ツール
	リアルタイムソフトウェア			
	エンベデッド ソフトウェア	コアテクノロジー サービス	技術 アプリケーション	
モバイルネットワーク		携帯電話端末搭載 ソフトウェア国際 標準技術	基幹ネットワーク システム	RealtimePower シリーズ Karearea BMLブラウザ SVGブラウザ LBSソリューション 文殊 WAPシミュレータ
ワイヤレス	携帯電話端末			
インターネット	携帯情報端末 携帯電話端末 車載端末	XML,SVG,BML, LBS技術	Webシステム	
社会基盤システム			交通（航空,ITS）, 放送,防衛,物流, 医療システム	
宇宙先端システム	人工衛星搭載機器	オブジェクト指向 設計技術	ロケット,人工衛星 天文関連システム	

5つのビジネスフィールド (BF)



ワイヤレスBF

携帯電話端末ベンダー向けに、国内向け/海外向け携帯電話端末の、インターネット連携機能
SyncMLなど同期化技術
SMILなどAVマルチメディア技術
JAVAやBREWといった仮想技術などを主体とした
エンベデッドソフトウェアを提供している。

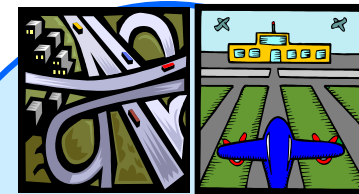


モバイルネットワークBF

モバイル通信事業者に対して、携帯電話のインターネット連携機能を中心とする機能仕様設計支援や携帯電話端末ベンダーが提供してくる当該機能の適合性評価試験といったコアテクノロジーサービスを提供し、また基幹ネットワークシステムなどの技術アプリケーションを提供している。

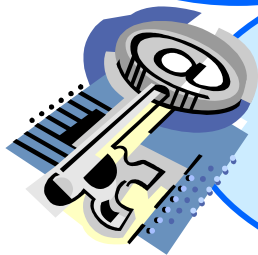
エンベデッドソフトウェア
コアテクノロジーサービス
技術アプリケーション

ソリューションツール



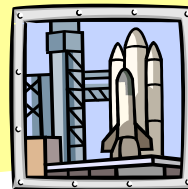
社会基盤システムBF

交通（航空、ITS）、放送、防衛、物流、医療など、社会公共性の高い技術アプリケーションを提供している。



インターネットBF

XML、SVG、BML、LBS技術をキーとするコアテクノロジーサービスと携帯情報端末、携帯電話端末、車載端末のエンベデッドソフトウェア、そして技術アプリケーションとしてLBS関連やセキュリティ要求水準の高いWebシステムを提供している。



宇宙先端システムBF

ロケット、人工衛星、天文関連の技術アプリケーション、人工衛星搭載機器のエンベデッドソフトウェア、そしてオブジェクト指向設計技術を活かしたコアテクノロジーサービスを提供している。

研究開発

ユビキタス (Ubiquitous)

モバイル・ワイヤレス技術研究
リッチコンテンツ技術研究

OMA (標準化活動)

SVG (リッチコンテンツ)

BML (携帯デジタルTV)

LBS (位置情報サービス)

ゼロ・レイテンシー (Zero Latency)

超高速技術研究

超高速インメモリXMLデータベース

Karearea

開発技術

開発フレームワーク研究
開発基盤および部品群研究

EC-Chefフレームワーク

R&D

先端技術

ロボットソフトウェア共通化活動

RSi (Robot Service initiative)

ORiN (Open Robot/Resource
Interface for the Network)

RTミドルウェア

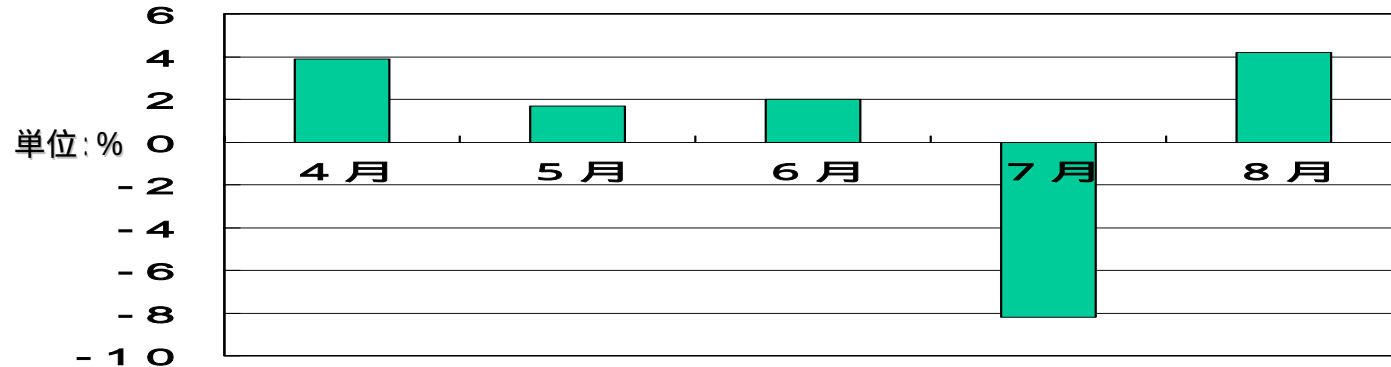
2005年3月期 中間期決算概要

事業環境とトピックス

事業環境

IT需要は堅調とはいえ、**力強さがない**

情報サービス業売上高前年同月比推移(特定サービス産業動態統計速報)



お客様からの**厳しいIQCD改善要請**が続いている

Q:品質・機能 **C**:価格 **D**:開発期間

中間期のトピックス

6月10日 JASDAQ上場

7月15日 BMLブラウザ発表

9月01日 渋谷第2オフィス開設

損益計算書

単位:百万円

	2005年3月期 中間	2004年3月期 中間	前期比
売上高	1,180	1,359	13.1%
売上原価	851	881	3.4%
売上総利益	329	477	31.1%
販売管理費	287	272	5.6%
営業利益	41	205	79.8%
経常利益	9	206	95.4%
当期純利益	3	111	97.3%

前年同期比 減収減益

JASDAQ上場費用

本社スペース拡張(渋谷第2オフィス開設)費用

大型の工程遅れプロジェクト発生に伴う不採算及び受注機会損失

第2四半期での挽回不調

貸借対照表

単位:百万円

	2004年9月30日	2004年3月31日	増減
流動資産(百万円)	2,537	2,340	197
固定資産(百万円)	991	820	171
流動負債(百万円)	284	576	291
固定負債(百万円)	166	214	47
純資産(百万円)	3,077	2,369	707
総資産(百万円)	3,528	3,160	368
株主資本比率	87.2%	75.0%	12.2%
流動比率	891.3%	405.9%	485.4%
固定比率	32.2%	34.6%	2.4%

流動負債の減少 買掛金の減少、税金の納付など季節要因

純資産の増加 **株式上場**にともなう公募増資

オーバーアロットメントに係る第三者割当増資

キャッシュフロー計算書

単位:百万円

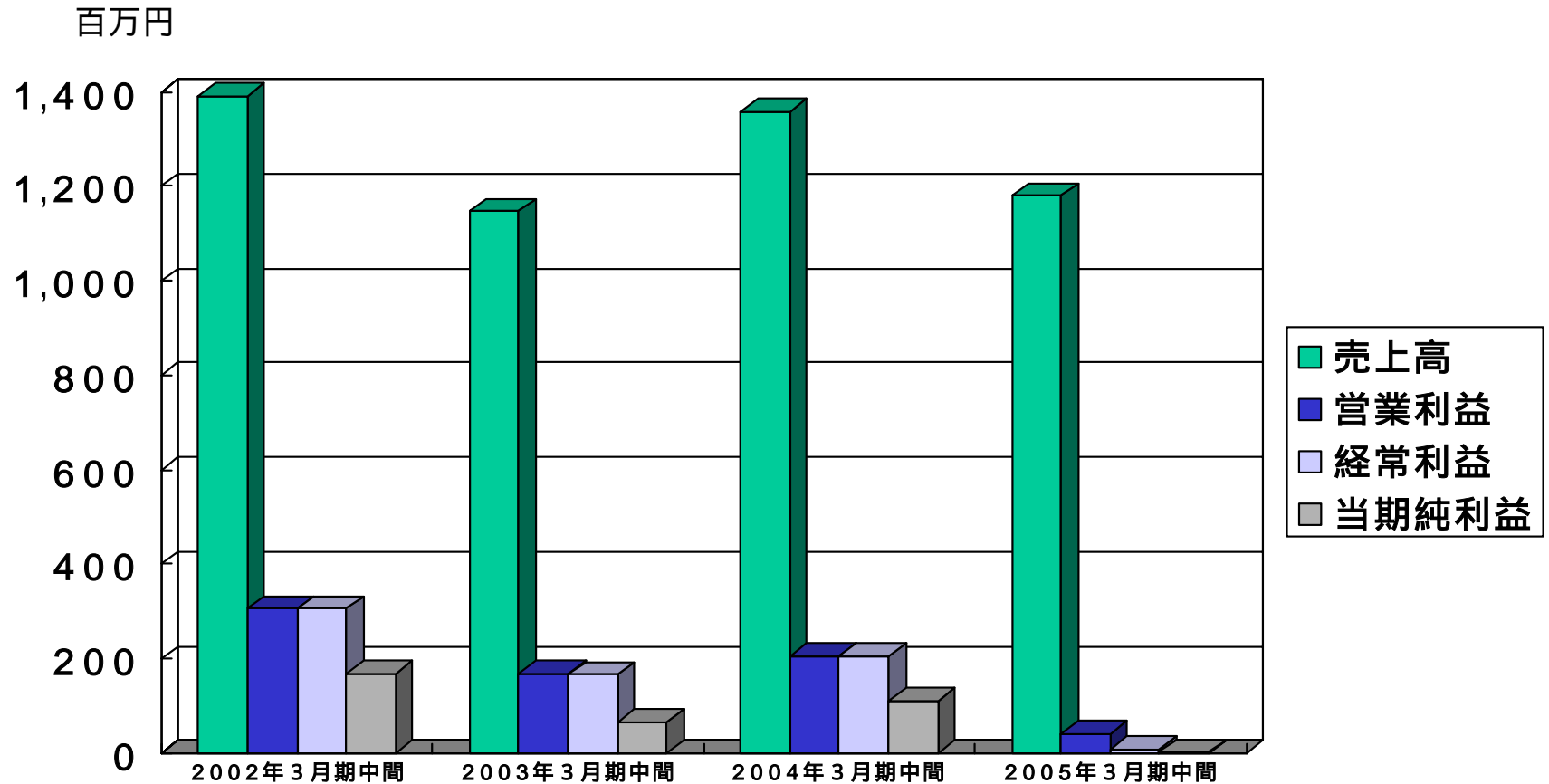
	2005年3月期 中間	2004年3月期 中間	前期比
営業活動によるキャッシュフロー	94	60	154
投資活動によるキャッシュフロー	253	27	225
財務活動によるキャッシュフロー	693	21	715
現金及び同等物の増減額	346	12	334
現金及び同等物中間期末残高	1,584	1,077	506
参考)長期性預金	300	-	300
参考)現預金合計	1,884	1,077	806

営業キャッシュフロー 業績不振によりマイナス

投資キャッシュフロー 長期性預金への振り替え3億円によりマイナス

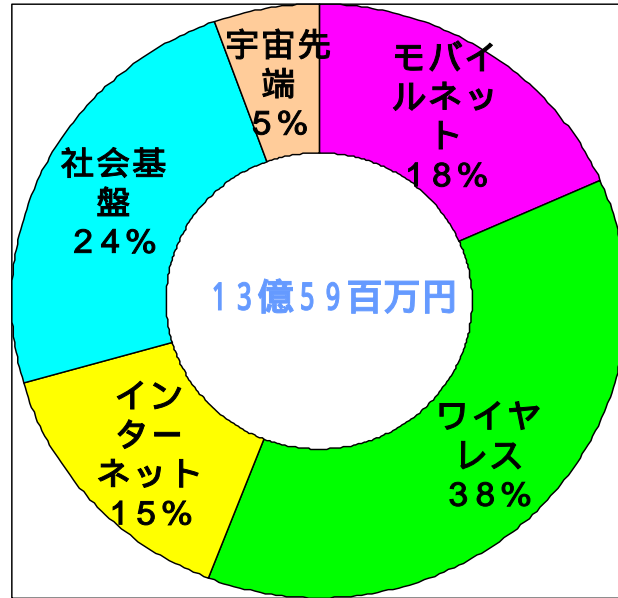
財務キャッシュフロー 公募増資とオーバーアロットメントに係る第三者割当により増加

中間期 業績推移

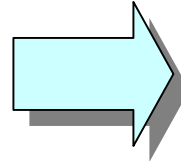


BF別の状況

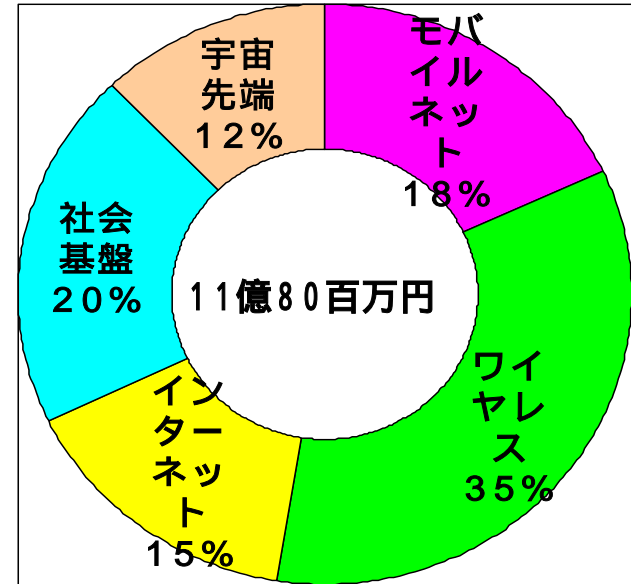
2004年3月期中間



売上構成比の
変化



2005年3月期中間



モバイルネットワーク

コアテクノロジーサービス堅調、ただし低価格化
基幹ネットワーク技術アプリケーション小型化

ワイヤレス

大型の工程遅れプロジェクト発生による直接・間接の悪影響
新規取引先拡大の成果

インターネット

BMLブラウザ商談などが加わり案件の動き活発
商談対応に多くを割く、小型案件が多く変動大

社会基盤システム

前期の地上デジタル放送関連案件の終結

宇宙先端システム

数年に亘る低迷を脱して商談量増加

その他

期待を下回る。ただし利益面は比較的好調

業績不調

期待を下回る

予想通り売上高減少

業績改善、利益面は比較的好調

販売実績は前期を上回る

技術サービス別の状況

中間期売上高構成比率

単位：%

BF	エンベデッド ソフトウェア	コアテクノロジー サービス	技術アプリケーション	合計
モバイルネットワーク	-----	71.0 (75.7)	29.0 (24.3)	18.1 (18.7)
ワイヤレス	100.0 (100.0)	-----	-----	34.2 (35.4)
インターネット	4.9 (18.3)	47.0 (40.8)	48.1 (40.9)	15.1 (13.8)
社会基盤システム	-----	-----	100.0 (100)	20.0 (24.4)
宇宙先端システム	19.3 (23.7)	54.5 (41.2)	26.2 (35.0)	12.2 (7.4)
合計	37.3 (39.6)	26.6 (22.8)	35.7 (37.2)	99.7 (99.6)

()内の数字は、前期通期(2004年3月期)の構成比率

参考 ソリューションツール 0.3%(0.4%)

株式会社セックの 成長戦略

事業環境認識と基本方針

情報社会の本格化

ボーダレス → 低価格化
スピード → 開発期間短縮化

セックの
お客様中心ビジネス
推進

QCD(品質・コスト・納期)の
さらなる改善

New Element to
New System

「新しい何か」により
不可能を可能に

基本となる
お客様満足度の獲得

主体的ビジネスから
社員数に制約されない事業成長へ

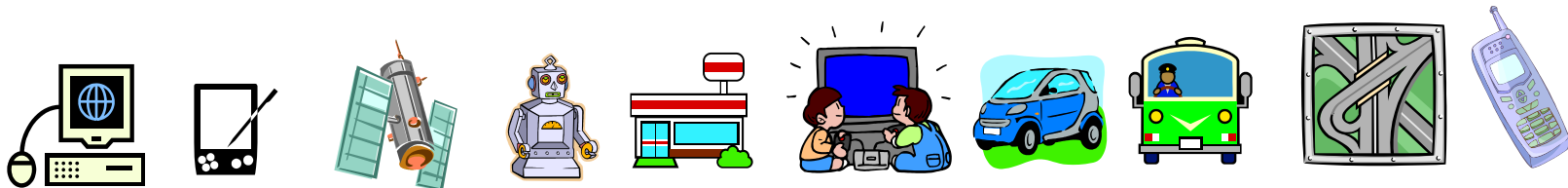
成長戦略

セック成長戦略のキーワード

ユビキタス

Ubiquitous

我々の身の回りの全てのものにコンピュータを埋め込んでネットワークに接続することで、我々の生活を、安全、安心、快適、効率的に、また環境負荷を低減化する技術。



ユビキタス / これまでの取り組み

通信ネットワーク

エンベデッド
ソフトウェア

豊富なユビキタス
基盤技術の蓄積

OMA活動

無線通信規格の国際標準化団体

XML

データベース



ITS

高度道路交通システム

リアルタイム技術

ユビキタス / 現在の取り組み

airCube

BMLブラウザ
(Broadcast Markup Language)
地上デジタル放送

airsmartG

SVGブラウザ
(Scalable Vector Graphics)
ベクター図形描画エンジン

新しいユビキタス
基盤技術への取り組み

airLOOP

LBS技術
(Location Based Services)
位置情報サービス
ロケーション基盤技術

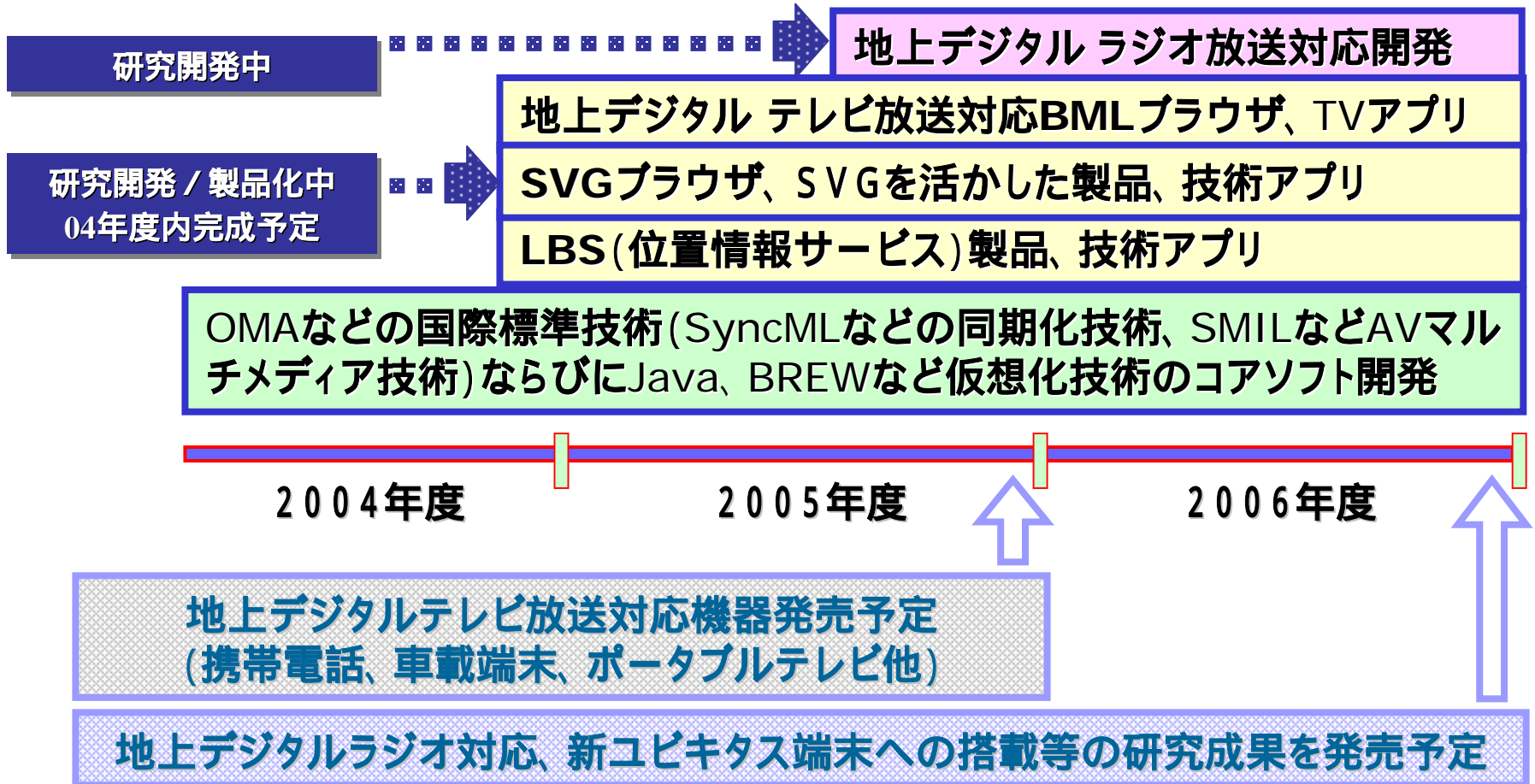
Robotics

ロボット技術
(Robotics Technology)
ロボットソフトウェア共通化

airCube, airtsmartG, airLoopは開発コードです。
製品開発コードの「air」= ユビキタスをイメージ

成長戦略

ユビキタス機器のエンベデッドソフトウェア
- - 社員数に制約されない事業成長の牽引車に



BMLブラウザ

air Cube (製品開発コード)

地上デジタル放送で行なわれる、携帯電話などの移動体向けの放送が、2006年初春に本番放送を迎えると言われています。当社は、通信と放送の連携を可能とすべく、各種ユビキタス機器へのBMLブラウザ搭載を推進しております。

搭載対象ユビキタス機器：携帯電話 / 車載端末 / ポータブルTV / PDA

関連商談として、TVアプリケーションの開発、オーサリングツール開発等のソフトウェア需要が期待されます。

【参考情報】

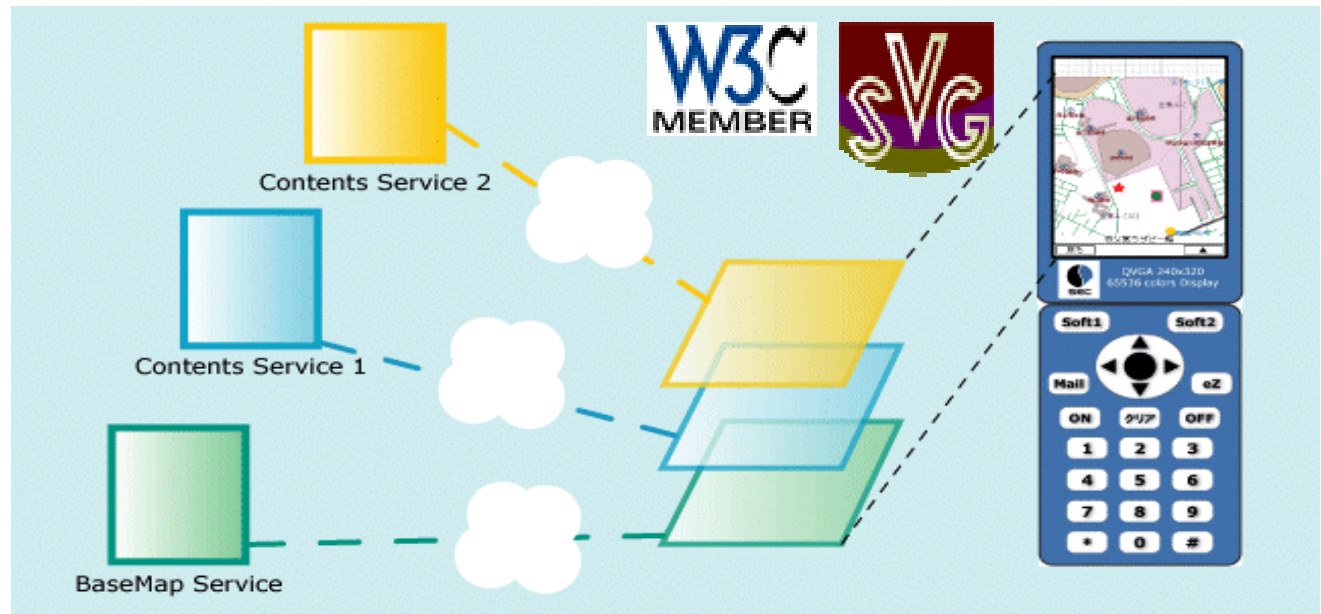
- ◆ 東京放送(TBS)と博報堂は、2003年11月17日、一般ユーザーを対象にした地上デジタル放送の視聴意向調査の結果を発表しました。
- ◆ 調査には松下電器産業が協力し、データ放送や、放送と通信を連動させた高機能サービスのイメージを理解した上で答えてもらうため、首都圏の20 - 49歳の男女180人を会場に集めてデモンストレーションを見せ意見を収集したとのこと。
- ◆ 「地上デジタル放送を見たい」としたユーザーは、
固定型TVで92.8%
携帯端末型TVで74.4%
という結果から、「地上デジタル放送の視聴意向は潜在的には絶大」としています。
- ◆ また、視聴意向はカーナビ型TVでも56.7%に上るなど高く、「広告メディアとしての将来性が確認された」と報告されました。
- ◆ 双方向サービスでは、固定型は「番組・CMの詳細情報を見る」、携帯端末型・カーナビ型は「番組やCMと連動した地図情報」などに関心が高かったと報告されています。
- ◆ すなわち、誰もが、いつでも、どこでも、地理的情報と連動した情報サービスを求めていることがわかりました。



SVGブラウザ

air smartG (製品開発コード)

- SVGとは、Scalable Vector Graphicsの略で、スケーラブルなベクタ形式のグラフィックスを定義するための技術です。W3Cにて標準化が推進されています。
- 本製品は、SVGデータを忠実にレンダリングするブラウザで、PCはもちろん、携帯電話、PDA、カーナビ、情報家電などのユビキタスネットワーク上の全ての機器に搭載することが可能です。
- 2004年度から約2年かけて、国土交通省国土地理院と「電子国土の携帯電話での利用に関する研究」というテーマで共同研究を実施しています。この研究は、携帯電話を利用して、誰もが、いつでも、どこでも、地域に関する様々な情報を得ることができる技術の開発、及び、実証実験を行うものです。



位置情報サービス

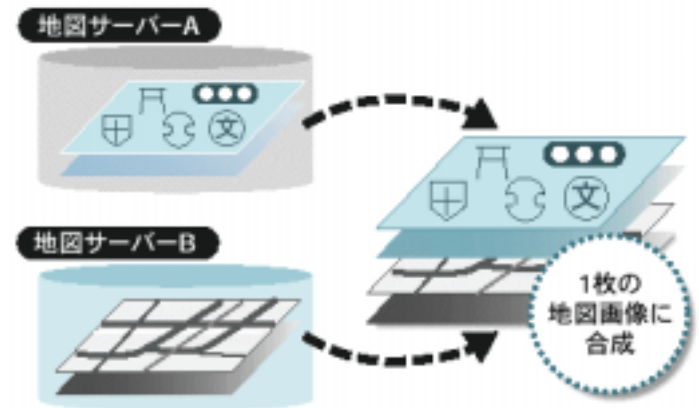
air L P (製品開発コード)

air L P (製品開発コード)は、測位システム(GPS)と地理情報システム(GIS)の融合である位置情報サービス(LBS:Location Based Services)の基盤ソリューションです。

移動体より収集した位置情報をリアルタイムに配信するロケーションプラットフォームで、
サーバで地図をレイアリングしたSVGデータの配信
SVGTブラウザ対応のSVGTデータの配信
Webサービスインターフェースを用いた位置情報の配信
の3方式での位置情報配信を提供します。また、移動体位置の蓄積情報(移動体軌跡情報)をSVGアニメーションで再現することも可能です。

移動体情報の収集に関しては、
GPS携帯からの定期的な位置情報の発信
(利用ユーザの操作なし)
GPS携帯からの能動的な位置情報の発信
(利用ユーザが発信操作を実施)
サーバからGPS携帯への情報収集依頼による応答
(利用ユーザの操作なし)

の3方式による位置情報取得が可能です。将来的には、GPS携帯以外の移動体情報収集端末の提供を計画しています。

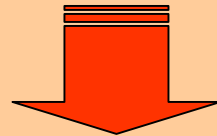


超高速インメモリXMLデータベース Karearea(カレアレア)

Kareareaは、世界最高速レベルのXML検索性能を発揮するだけでなく、業界で初めてXMLによる高速多次元集計を実現した、全く新しいタイプのXMLデータベース製品です。

XML適用の拡がり

- 企業間取引
 - ▶ RosettaNet
 - ▶ cXML
 - ▶ Webサービス
- 財務情報
 - ▶ XBRL
- 放送
 - ▶ BML
- 新聞
 - ▶ NewsML
- 地図情報
 - ▶ G-XML
- マルチメディア
 - ▶ SMILE
 - ▶ SVG
 - ▶ MPEG-7
- 音声
 - ▶ VoiceXML
- バイオ
 - ▶ BSML
- 化学
 - ▶ CML
- 数式
 - ▶ MathML
- RFID
 - ▶ PML
- 医療
 - ▶ MML
- 放送・新聞
 - ▶ BML
 - ▶ NewsML
- 観光
 - ▶ TravelXML
- 電子出版
 - ▶ JepaX



大量のXMLデータを
高速に処理する必要性

Kareareaの特徴

- 高性能
 - ▶ 数百万ノードからの検索、ソート、集計がミリ秒オーダー
 - ▶ チューニング不要、インデックス不要
 - ▶ XMLによる最大4次元までの高速多次元集計
- 高機能
 - ▶ ユーザ定義関数による高度な検索・集計
 - ▶ RDB感覚のソート、多段階絞り込み検索、検索結果の結合
 - ▶ 付属GUIツールによる定型業務構築
 - ▶ RDB連携、データの一括ロード/セーブ
 - ▶ 開発用Java API



Kareareaの主な適用実績

衛星観測データリモートモニタシステム
 製品原価計算システム
 世論調査アンケート集計システム
 衛星テレメトリデータ分析(論文発表)
 官公庁向け変更・構成管理システム
 博物館システム

太陽観測衛星統合データベースシステム
 衛星観測データベースシステム
 仮想天文台データベースシステム
 製造業向け設計支援システム
 電子番組表システム
 商品企画データベースシステム

適用研究/グリーン調達を支える含有化学物質管理システム

社員数に制約されない事業成長を目指して

「新しい何か」による主体的なビジネスで高付加価値化

- - 当面の「新しい何か」

携帯電話端末国際標準技術、仮想化技術など

BML、SVG、LBS

Karearea

オブジェクト設計技術

研究開発・製品化活動による「新しい何か」の品揃え充実

新たなビジネスモデルへの挑戦

ライセンスビジネス

ロイヤリティビジネス

ライフサイクルサポート重視

アライアンス推進

他社や大学との共同研究

営業面、技術面、製造面などでのwin-win連携

2005年3月期 業績見通し

今期業績見通し

方針 - - 中期的な業績成長を重視

2005年3月期中間期の成果

- 携帯電話端末で動作するBMLブラウザでの先行、及びSVGやLBSなどの技術での優位が、新たな事業展開に繋がり始めていることを実感。
- 取引先拡大により営業力の強化も図られつつある。

これら成果を当社の中期的な事業成長に繋げるために

- BMLブラウザの研究開発・製品化を前倒ししてその完成度を高め
- BMLブラウザ試作商談及びSVGやLBSでの先行商談を優先受注

しかし

- 試作や先行商談は、現段階では小型案件が多いなどで収益への貢献があまり期待できず、優先受注は業績引下げ要因となりかねない。

中間期末の状況

- JASDAQ上場及び本社スペース拡張に伴う費用は全て予算範囲内で支払いを完了
- 工程遅れプロジェクトの切り替えに伴う稼働率の低下が若干残る
- 小型化・低価格化・短納期化などにより受注残高水準が例年より低下

優位を維持したい

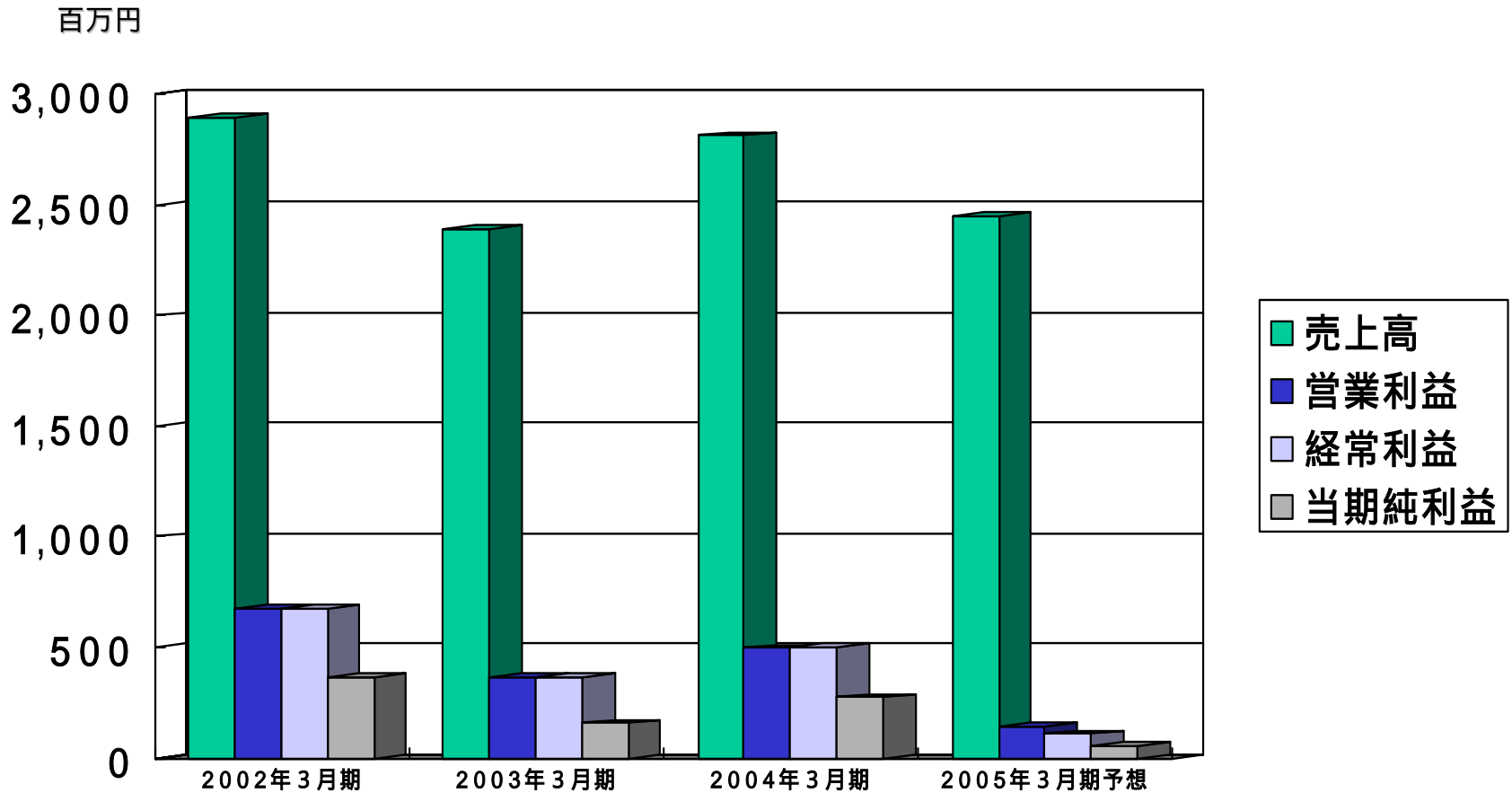
受注量を確保できたとしても、技術者の稼働率を大幅に引き上げる必要があり、優位維持のための前記の諸活動とは両立しがたい。

今期業績予想

単位:百万円

	2005年3月期 予想	2004年3月期 実績	増減
売上高	2,450	2,813	363
売上原価	1,777	1,832	55
売上総利益	672	981	309
販売管理費	531	483	48
営業利益	141	497	356
経常利益	110	500	390
当期純利益	55	273	218

通期業績の推移



B F 別事業方針

モバイルネットワーク

受注量の拡大と確実な消化、来期商談を豊富に獲得

ワイヤレス

取引先の拡大により携帯電話端末のエンベデッドソフトウェアビジネス拡大

インターネット

BMLブラウザ試作商談、SVGやLBS先行商談を優先的に獲得して優位を維持

社会基盤システム

受注量の拡大と確実な消化、来期商談を豊富に獲得

宇宙先端システム

受注量の拡大と確実な消化、来期商談を豊富に獲得

その他（ソリューションツール）

Karearea 販売に注力

この資料についてのご注意

- この資料の目的は、当社へのご理解を深めていただくためのIR情報をご提供することであり、投資の勧誘を目的としたものではありません。投資につきましては、ご自身でご判断願います。
- この資料には、当社の現在の計画、見通し、戦略など、及び将来の業績に関する見通しが記載されております。こうした記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、経営環境をはじめ、さまざまな外部的要因の影響等により変化しうることをご承知おきください。
- この資料の作成に際しましては、細心の注意を払っておりますが、内容につきましていかなる保証を行うものでなく、この資料を使用したことによって生じたあらゆる損害などについて、当社は一切責任を負うものではありません。

ありがとうございました

ユビキタス社会の安全と発展のために

“ Realtime@net ”

本資料に関するお問い合わせ

株式会社セック IR室

電話 03 - 5458 - 7727